



中学生の部 優秀賞

「自分が感じたこと」

中萩中学校 1年 伊藤 希帆

私は難聴があります。3歳の時に見つかり、両耳に補聴器をつけることになりました。途中で右耳は良くなり、左耳だけ補聴器をつけたので良くなりました。普段はなかなか言えない、難聴ならではの「ぐち」を言ってみたいと思います。

私は補聴器を見られるのがとても嫌でした。耳かけ型補聴器を使っていた頃、登校中に知らない子が見てきました。相手には悪気がないのは大きくなって少しは分かりますが、私は悪口を言われている気がしていました。だから大人には「トラックの音がうるさいから登校中はつけたくない」と言っていました。うそはついていけないのは知っていたけどみんなに心配をかけたくなかったからうそをついてしまいました。本当はつけたかったのに補聴器が有名になって、「耳が悪い人がつける機械なんだ」ということをみんなが知ってくれていたらよかったな。あと、私は話が聞き取りにくくて、本当にきちんと聞こうと思ったら、何回も聞き返さなくてはなりません。でも、聞き返すと、「もうええわ」と言われ、嫌な空気になるので適当にうなずいています。でも、時々、「それでどう思う？」と聞き返され、ごまかすのに

焦る時があります。誰か、この時返す言葉を知っていたら教えてほしいです。

聞きとりにくい声があります。声が小さいのはもちろんですが、ぼそぼそ言ったり高い声は聞きとりにくいです。でも相手に「聞きとりにくい声です」とは言えません。相手には相手の事情があるからです。声をうまく出せないのはわざとじゃないからです。私だってわざと聞き返している訳ではないのに、何で聞き返すことはだめなのでしょう。

友達や先生が言ったことが聞こえないことがたまにあります。もしかしたら、私を呼んでくれる人がいても気づかないことがあるかもしれません。前に友達が「無視されたのかと思った」と言ってくれたことがあります。それを言ってくれてよかったと思いました。言ってくれず離れてしまう方が嫌です。

私の耳のこと、100パーセントわかってほしいとは思わないけれど、人には人の事情があることをわかってほしいです。思いやりがあふれている環境で過ごしたいです。私はちょっとくらいでは怒ったりしないので、どちらかというところどんどん言ってきてほしいタイプです。



中学生の部 優秀賞

「西蓮寺獅子舞保存会」

角野中学校 3年 竹内 寛尊

僕はいつも内宮神社のお札を持って来てくれるおじいさんに会う度に「いい体しているなあ。もう少し大きくなったら西蓮寺の獅子舞入らん？」と声をかけてもらっていました。そして小学校4年生の時に見学に行き、楽しそうだし格好良いなと思い、そのまま西蓮寺獅子舞保存会に入会しました。

その頃、こどもは僕1人だったのですが、「おかげで獅子も出来た。良かった。」と皆が喜んでくれてとても嬉しかったです。そして優しく教えて下さり夢中になりました。

父が送り迎えをしてくれていて、付き添いで練習を見に来るうちに、いつの間にか父が雌獅子の獅子頭をする様になり、僕が中学3年生になった今では、父が雌獅子の獅子頭、僕が雄獅子の獅子頭を親子揃ってさせてもらっています。父とも獅子舞の演舞の打ち合わせやお互いの演舞の感想など獅子舞を通して共通の話題も増え、以前に増してコミュニケーションを取れる様になりました。

西蓮寺獅子舞保存会は地域の行事にもたくさん参加しています。西蓮寺自治会の敬老の日には、自治会館で毎年獅子舞を披露します。すると、見に来てくれるおじいさんやおばあさんが「良かったよ。」と声をかけてくれて手をたたいて喜んでくれます。いつも温かく見守ってくれている事に感謝すると同時に、「よし！次も頑張ろう」という気持ちになります。

他にも内宮神社や神楽場、地域のスーパーのコープ山根などでも毎年演舞をしています。どこでやっても、本当に地域の方がニコニコ優しく見守ってくださるので、獅子舞を続けてきて良かったなと思います。

地域の人たちとコミュニケーションを図れる西蓮寺獅子舞保存会は、僕にとって、いつも変わらず温かく迎え入れてくれる心がなごむ大切な場所です。これからも、地域の人たちを笑顔に出来るこの幸せな活動を続けていきたいと思っています。

【福祉作文 選考委員】

社協支部連絡協議会 会長 小野 英昭 / 民生児童委員協議会 会長 白石 敦之
福祉施設協議会 会長 馬越 健 / 社会福祉協議会 会長 小野 正師

～作文入力ボランティアの方にご協力いただきました。ありがとうございました。～

